

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472300052		
法人名	社会福祉法人ウェルフェア仙台		
事業所名	仙南ジェロントピアグループホームリリーハイム		
所在地	宮城県伊具郡丸森町舘矢間山田字市子沢1番地		
自己評価作成日	令和 3年 1月 6日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 2月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中で、一人ひとりが自分のペースで穏やかに生活できるような支援を努めています。認知症があつたとしても、周囲の支援を受け自分でできるだけ行えるよう支援に努めております。また、ご自分で決めていただくような情報提供をした上で自己決定をしてもらい、入所前の生活、自分が希望する生活を継続していけるよう支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは阿武隈急行線丸森駅から、約1.5kmの山間にある同法人の運営する特養老人ホームやデイサービス施設と同敷地内の一角にある。自然の緑に囲まれた敷地に桜の木が植えられ、コロナ禍にあつても花見や散歩が出来る環境である。目標達成計画に掲げた避難訓練の実施は、入居者それぞれの身体状態にあつた避難方法で、年2回の避難訓練が実施され目標を達成している。職員はホームの理念に沿って、入居者の認知症による不具合はあるが残存能力を活かした、食事の準備や掃除の手伝い、毎朝その日に着る自分の衣服を自己決定が出来る等、生きがいのある穏やかな生活を送れるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 仙南ジェロントピアグループホームリリーハイム )「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がケアに反映されているか振り返り、具体的に日々のケアで何をするのかなど毎日の申し送り時を活用し実践に生かせるようにしている	職員間の話し合いで理念を振り返り、ユニット目標を立て理念と共に事務室に掲示し、始業前に唱和し確認している。目標の主旨は入居者の残存能力を引き出し、生きがいのある穏やかな生活を支援するとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時など併設事業所(短期入所、通所介護、特養)の利用者の方々や、民謡クラブへの参加などで交流している。	コロナ禍以前は、地区の敬老会や民謡クラブ、認知症カフェ、芋煮会等で交流があった。今は同法人施設の特養老人ホームやデイサービス利用者や職員と、施設内の散歩で挨拶を交わす等している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にして、ケアの向上に生かしている	昨年3月の開催を中止した書面による報告以外は、法人別棟の「3密」を避けられる広い会場で通常通り開催している。入居者の個別の介護の仕方や対応についてメンバーから幅広く意見を募り、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、入所情報や待機者の情報を連絡し参考意見をもらう等している	毎回参加している地域包括職員に入居者の入退居状況を報告し、入居希望者の情報を得ている。研修会開催などの情報は文書で通達されている。家族による通院困難な入居者の特養への移転等を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議、GH会議において身体拘束の内容等について検討し、マニュアルを活用し日々のケアの中でどのような行為が身体拘束にあたるのか具体的に検討し、ケアに努めている	身体拘束適正化委員会を2か月毎に開催している。職員は内部研修で身体拘束の弊害や事例等で具体的に検討し、勉強している。入居者のトイレの利用が重なった時等、思わず口に出る「ちょっと待って」等の言葉には職員間で注意し合っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	仙南拠点開催の内部研修やGH会議において研修し、理解を深めケアに当たっている	内部研修等で虐待対防止法や虐待の前兆となる言動について勉強している。虐待防止やグレーゾーンについて、職員アンケートを実施して職員の虐待に対する考えを把握する等、職員のメンタルケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	仙南拠点開催の内部研修やGH会議において研修し、理解を深めケアに当たっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書、重要事項説明書について説明しご理解、ご納得いただけるように説明している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者のご意見やご要望については日々の生活の中で伺い、ご家族については、面会時、アンケート結果等を踏まえ職員に周知し反映している	面会時やかかりつけ医への通院時に要望や意見を聞く機会がある。「毎日牛乳を飲ませて欲しい」の要望に朝食時に提供している。「散歩や外出をしてほしい」の要望には周辺の散歩や廊下を歩く等している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時、GH会議等で意見や提案があった場合は解決できるものはGH内で解決し、難しい解決できない場合は代表者会議に反映させている	申し送りノートで意見や要望を伝えている。職員の要望で加湿器の導入や入居者の毎朝の着替えは自分の意志で衣服を選んでもらうことを取り入れている。資格取得に関する費用や休暇取得にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートにおける目標設定を行い、実施状況、自己評価した上で面談を実施し評価している。本人が納得できるように評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仙南拠点における内部研修や外部研修の案内を提供し積極的に受講できるように促している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仙南拠点の職員との交流や、研修会を通じてのネットワークづくりを推進する取り組みを行っている	毎月、法人の他の施設職員と身体拘束や虐待防止、成年後見人制度等について交流が行われている。隣接のデイサービスセンターや特養老人ホームの職員や看護師等と意見交換や相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者のご意向、ご希望を伺い安心して生活できる環境であることをお伝えするように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご意向、ご希望を伺い今までの生活と変わらない、安心して生活できる環境であることをお伝えするように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のご意向、ご希望を伺い必要に応じたサービスを説明し提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に過ごすことができ職員も幸せです」とお伝えし、できることは継続できるような支援に努めている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と綿密に連絡を取り合い、面会の機会を促し、催事への参加を呼びかけ一緒に時間を過ごしていただくように努めている。通院はご家族にお願いしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用していた、通所介護や短期入所のご利用者や、職員との交流ができるように努めている	他施設の行事等で知人や友人と交流をしている入居者がいる。継続している方もいる。定期的に来訪する床屋や配食業者も馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の心地よい居場所や関係性を把握し、いい関係性の中で交流ができるように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設の特養への入所の方々においては希望に応じて退所後の相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、ご意向を把握し情報収集シート、課題分析シートへ反映しケアプランへ活かしケアにつなげる努力をしている	入浴時や居室で寛ぐなど、職員と1対1で会話するときに入居者の本音を聞いている。無断外出の多い入居者には一緒に散歩に付き添うことで落ち着きを取り戻している。花好きの方に鉢植えの購入などを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のバックグラウンドについて情報収集に努め入所前と変わらない生活の継続ができるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で様子観察を行い、職員間での情報収集、交換、共有を行い把握できるように努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集し、アセスメント結果に基づき、課題分析を行い、自立支援ができ生きいきと生活ができるような介護計画書になるよう関係者で話し合いのもと作成に努めている	家族の情報やアセスメント結果から職員で話し合い、ケアマネジャーが計画書を作成している。あまり動かない入居者にはテレビ体操や散歩等、手先の器用な方には折り紙などの創作活動を計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入や、朝、夕の申し送り時にノートを活用し情報共有しケアへの実践、介護計画の見直しに生かすように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズにはできる限り対応するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族には通院支援、外出支援をお願いしている。また、催事には運営推進委員にも協力していただき行事を盛り上げていただいている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続しており、ご家族に受診支援いただいている。体調不良時にはかかりつけ医を受診できるように支援している	全員が家族が同行して、かかりつけ医を受診している。受診結果は家族の報告を受け記録している。家族の都合で職員が同行する場合は有料で対応している。歯科医などの専門医の受診も家族対応を基本としている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の特養看護師の協力をもらい状況確認や通院の必要性の判断等アドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院中、退院前、退院後と病院関係者と情報交換を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に係る指針」に基づき入所時に説明し希望書を取り交わりについては体制ができておらず行っていない	ホームでは看取りが出来ないことを入居時に「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は段階的に医師や関係者で話し合い、入院手続きや特養老人ホームへ申し込み手続きの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	仙南拠点の急変時の対応についての研修、GH会議において事故発生時研修を重ね実践力を身に付けている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業継続計画、マニュアルを作成し訓練している	目標であった夜間想定を含む年2回の避難訓練は実施されている。地域住民の参加は無かったが、法人他施設の職員の協力が得られる環境である。反省として「避難通路の狭さと地域住民の不参加」があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しその方に合った言葉かけや伝え方ができるように努力している	名前に「さん」付けで声掛けをしている。居室への出入りはノックと声掛けで入居者の承諾を得て行っている。入居者の不在時の入室は事前に承諾を得ている。パッド交換時は戸を閉めるなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を尊重しご自分で決められるような情報提供を行うなど自己決定支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握しその日にどのような過ごし方をしたいのか確認し希望に沿った過ごし方ができるような支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	担当職員を決めて本人の希望に沿った服装や髪形ができるように配慮し支援している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人それぞれの嗜好を把握し、嫌いな物には代替え品を準備している。食器の準備、下膳等できることは一緒に行っている	食材は配食業者を利用している。みそ汁とご飯はホームで調理している。行事食や、誕生日食など事前に連絡することで特別なメニューにも対応している。不動尊公園キャンプ場に外食に出かけたこともあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の食事、水分摂取量が十分であるのか一日を通じての食事・水分摂取量を把握し情報共有しケアに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・洗口液でのうがい等本人の状態や能力に応じた口腔ケアを実施し清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着や尿取りパット等、ご本人に合った物を選択し排泄間隔を把握し誘導したり、ご本人のサインを見逃さない対応を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握している。声掛けや立ち上がる等の本人のサインを見て対応している。全員が自立しており、トイレでの排泄をしている。夜間はコールボタンの使用で対応している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを把握し、その方に合った飲料や食品提供、運動の働きかけ等便秘解消に努めている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その方に合った、適温や入浴剤の有無、「入りたい時間」を把握しその方に合った入浴を提供できるように努力している	週2回の入浴を基本にしている。入浴を拒否する入居者はいない。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯、入浴剤を使って入浴を楽しんでいる。脱衣所の暖房はガスヒーターを使用し、ヒートショックの予防に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況に応じて、休息したり、心地よい睡眠がとれるように寝具の調整、室温等支援できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方内容の把握と服薬確認の徹底、副反応等注意深く様子把握できるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの楽しみごとや役割をみつけGHでの生活が生きいきと過ごせるように支援できるように努めている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	仙南拠点の施設内の散歩が中心になっているが、前年度は誕生日には自分がしたいことや行きたい場所への外出支援を行う等努力した	法人敷地の周囲は桜が植えられており、コロナ禍にあってもホーム敷地内で花見を楽しむことが出来ている。例年の外出では角田宇宙センターのロケット見学や丸森不動尊公園に出かけていた。家族の支援で自宅や温泉、墓参りに出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族から自己管理したいと希望する方もなく、また自己管理が難しい方と判断し職員の管理となっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する場合には支援しているが、現在のご利用者からの希望はない		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活室の天井が高く明るく開放感がある、自然の空気も取り入れながら居心地よい設えに努めている	南向きの高台にあるホールの窓からは暖かい日差しが差し込み、緑豊かな山の風景が広がっている。ホール内のテレビの前にはソファがあり、入居者の寛ぎの場所となっている。壁には毎月、手作りの季節の飾りがある。今月は節分の鬼の面が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節や行事ごとにGH内のレイアウトを変えたりゆったり過ごせるような環境設定を行うように心がけている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、ご本人、ご家族様も含めレイアウトを考え、好きな方は草花を置いたり和みの空間を造っている。	エアコンやベッド、押入れが備え付けとなっている。使い慣れた筆筒や衣装ケース、椅子、テーブル、テレビ等を持ち込んでいる。家族の写真や好きな花の鉢植えが飾られ、塗り絵や計算問題をしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自分で移動できる空間(トイレ、手洗い場)や、清潔で明るく居心地よい環境設定に努めている。		